



第3回検討委員会 開催

☆平成18年9月3日(日)午後1時30分から

☆野庭小・野庭東小施設見学後
野庭東コミュニティハウスにて会議

今回の説明・協議内容等

- 1 再編統合に当たっての各検討項目の考え方について
- 2 統合校の設置場所について
- 3 統合時期について



今回は、統合校の設置場所を議論する参考として、野庭小・野庭東小の施設見学会を実施し、その後、話し合いを行いました。

1 施設見学会の様子

会議に先立ち、両校の校舎・体育館・校庭などを、各委員とも様々な視点で見学しました。

野庭小及び野庭東小の施設状況			
	野庭小	野庭東小	
敷地面積(m ²)	11,505	21,180	
校庭面積(m ²)	3,724	6,698	
校舎延床面積(m ²)※1	6,412	7,361	
構造・階数	鉄筋コンクリート4階	鉄筋コンクリート4階	
体育館(m ²)	613	563	
H18普通学級数	6	16	
〃 個別支援学級数	2	2	
保有教室	普通教室※2	24	30
	個別支援	2	2
	特別教室※3	8	9
新築年度	昭和48年	昭和56年	
耐震補強工事※4	必要	不要	



- ※1 給食室を含み、体育館、屋外倉庫等を含まない建築基準法上の床面積。野庭東小は、コミュニティハウス及び保育園部分を除く。
- ※2 普通教室のうちクラスルーム以外の教室は、各校とも学習室(多目的室)やはまっ子ふれあいスクール、児童会議室、地域交流室等に活用。
- ※3 特別教室は理科室・音楽室・家庭科室・図工室・図書室・視聴覚室等。
- ※4 野庭東小の建物は新耐震基準に配慮した設計。

2 再編統合に当たっての各検討項目の考え方について

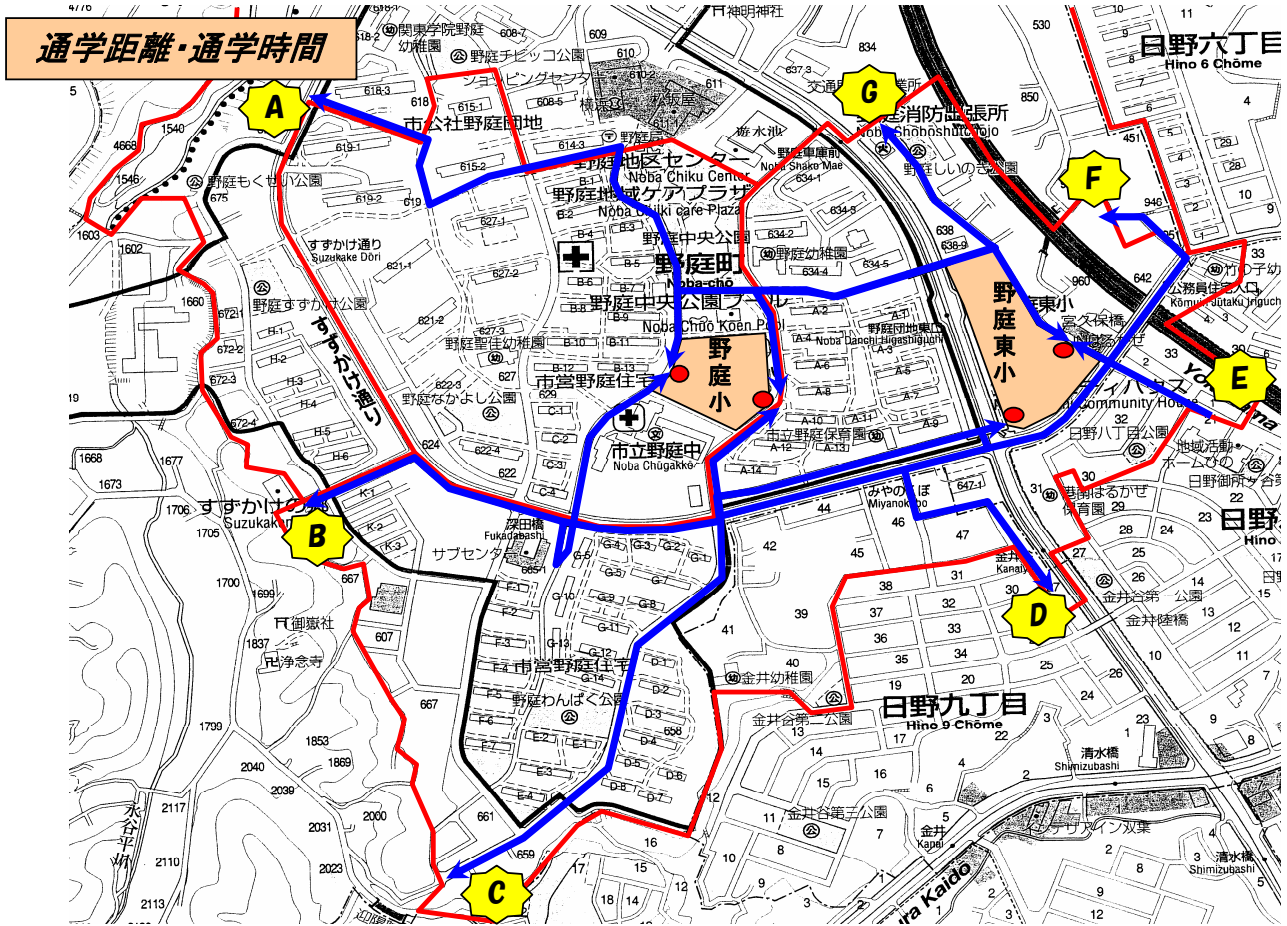
小規模校の再編統合は、子どもたちの教育環境の向上を目指して行うものであり、現在及び将来の子どもたちの立場になって検討することが必要です。各検討項目の考え方について、事務局から以下の案を提示しました。

項目	内容
1 統合に当たっての考え方 (統合校の校名)	一方の学校が残り、他方の学校が廃止されるということではなく、両校を一旦閉鎖し、新たな学校を誕生させるという考え方で統合を検討する。 したがって、学校の名称も白紙から検討することとし、新たな学校のあり方等については両校が対等の立場で検討することとする。
2 統合校の設置場所	通学区域や通学時間、通学安全性、施設内容などの観点から検討していくこととする。
3 再編時期	再編統合の実施時期は、検討委員会における議論を踏まえながら、今後検討することとするが、特に野庭小の状況を考慮し、できる限り早期実施に向けて検討していく。
4 統合校の通学区域	基本的には両校の通学区域を合わせた学区とするが、周辺地域の学区変更についても、地域の理解と協力を得ながら検討する。
5 統合校の中学校の通学区域	野庭小と野庭東小については、共に野庭中の通学区域であるため、現行のとおりとする。
6 新校の特色づくり	統合により新たに誕生する学校の教育内容については、再編を契機に両校で協力し、両校のよさを保ちつつ「野庭地区」にふさわしい教育の特色づくりを進める。

3 統合校の設置場所について

設置場所についての議論の参考として、施設見学会、施設状況に加え、学区内の通学距離・時間、横浜市における通学時間別学校数の割合を提示しました。

野庭小及び野庭東小の通学区域のうち、各学校から最も遠い地区をA～Gと仮定し、通学距離・時間を調べました。

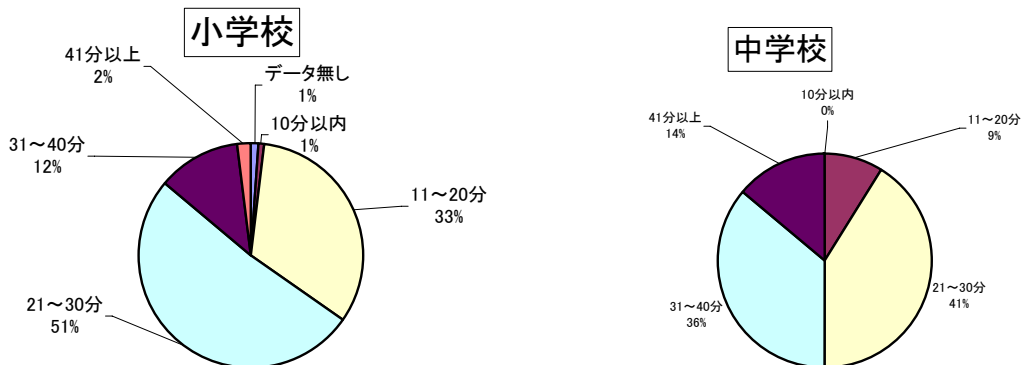


地点	野庭小		野庭東小	
	距離(m)	時間(分)	距離(m)	時間(分)
A	737	12	1,138	19
B	617	10	845	14
C	701	12	905	15
D	615	10	360	6
E	752	13	116	2
F	913	15	271	5
G	611	10	316	5

※ 距離は地図情報ソフトで測定しています。

※ 時間は60m/分で計算しています。

横浜市における通学時間別学校数の割合



□□ 主なご意見・ご質問 □□

☆ 設置場所よりもまず統合時期を決めるべき。それが決まらないと統合に向けての委員会審議のスケジュールが決まらない。19年度統合であれば月に1回の委員会では間に合わないと思うし、20年統合であれば、そのスケジュールに合わせて審議することとなる。

☆ 今日は統合校の設置場所を検討するのではないのか。

→ 統合時期と設置場所どちらを先に決めるかも含めて議論していただいて構いません。(事務局)

☆ 事務局から説明のあった「再編統合にあたっての考え方」は決定事項なのか。

→ 案として提示したので、今日この場で決めるということではなく、議論していただければよい。(事務局)

☆ 統合校の通学区域の考え方について、周辺地域の学区変更については統合校の設置場所が決まった時点で学区を見直すという表現に変えてもらいたい。

☆ 施設状況の資料はそれぞれの現状を示している。統合した場合には、それぞれ両校の教室配置がどうなるのかの比較資料が欲しい。現状の教室配置だけを見ても、どちらか判断するのは難しい。

→ 次回、資料を提示します。(事務局)

☆ 野庭小は耐震補強工事が必要とあるが、いつ工事をするのか。なぜすぐやらないのか。

→ 横浜市内の小中学校は520校あり、全校耐震診断を行いました。その上で工事の緊急度別にランク付けしており、緊急度の高い学校から順次進めている。野庭小はこれから設計を進める予定です。(事務局)

☆ 設置場所の検討については、施設見学や今日の資料等でいろいろな意見があると思う。ある程度地域の意見も聞いてから決めたほうがいいと思う。

3 統合時期について

統合時期による条件

統合時期	条例改正を提案する市会	意見書の確定時期
H19年4月	H19年2月市会	H18年12月10日
H20年4月	統合に向けて十分な準備期間を確保する面からは、 H19年2月市会 又は H19年5月市会	H18年12月10日
		H19年2月末(予定)

□□ 校長の意見 □□

H19年4月に統合することになった場合、これから両校の児童の交流計画を作成して、実施することは難しい。子どもの中にも不安感をもっている子はおり、急に環境が変化することに順応が難しい子もいる。再編統合に関しては、これから入学する未就学児童への配慮も必要だが、今の在校生がスムーズに交流などを通して適応できることが大切になる。また、統合校の新しい教育内容や方法がある程度理解し、希望をもって学校に通わせるには、H19年4月統合では難しいと思う。施設面についてもいろいろあると思うが、授業中に施設改修の工事をするような場面が出てくるかもしれない。更には、両校を一度閉じて新しい学校として再出発ということであれば、野庭小学校の関係者や卒業生に対して、閉校についての説明や、場合によってはセレモニー等が必要になるのではないかと思う。統合の緊急性はよく分かるが、総合的に考えるとH20年4月統合を希望する。(野庭小)

統合時期について、学校現場にいる者としては、閉校という区切りをしっかりとつけて、子どもたちの豊かな交流をどう作っていくかが問題だと思う。その上で教職員も新しい学校づくりに向けて新しくプロジェクトチームを作っ
てじっくり交流事業等について話し合いをしていきたい。そういう意味で統合時期の希望としてはH20年4月が
いいと思う。H19年4月は早いと思う。統合を焦ることにより、いろいろなしこりが残ってしまうのは避けたい。(野
庭東小)

□□ 主なご意見・ご質問 □□

★ 1年生は少人数で女の子だけの生活。それを人数の多いクラスになじませていかなければならないことを考えると、H19年統合は厳しいのかなと思う。

★ H19年統合の主なデメリットとしては、施設関係の予算を確保できていない。また、工事をする期間もないという問題がある。仮に工事はできても、その場合夏休みや授業中に作業が必要になる可能性も考えられる。(事務局)

検討項目について様々な意見が出され、議論の結果、統合校の設置場所については、統合した場合、それぞれ両校の教室配置がどうなるのかの比較資料(次回事務局から提示)や、地域の意見も考慮してから決めることとし、先に統合時期を議論することとなりました。統合時期については、主に子どもたちの交流を深める機会を多くすることが大切という観点から、委員会としてはH20年4月を目標とすることになりました。これを受け、次回、事務局から今後の審議スケジュールについての資料を提出することになりました。

野庭小・野庭東小の再編統合時期は
平成20年4月を目標とすることに決定

◎検討委員会に寄せられたご意見について◎

(平成18年9月1日 FAX)

私は、野庭小学区に居住する住民です。

最近、野庭地区小規模校再編検討委員会ニュースNo.2が配布され、初めて検討委員会が開かれて
いる様子を知りました。私は常々、野庭地区の学区見直しが必要だと考えていました。発言する場も
無く思っておりましたが、今回このニュースを見て、思うことをお伝えしたいとFAX致しました。

このニュースを見ると、統合ということで話が進んでいる様で今更と思いますが、野庭地区には3
つの小学校がありとても近い距離に存在し、(野庭小が)日本一のマンモス校になった頃、今後の人
口増加に伴い、下野庭小、野庭東小と建設されました。その頃の生徒数を考えての行政側からの学区
決定に不満を抱いている人が多かったことを思い出します。近い小学校に通えることが親としても一
番安心できることですし、交通事故や犯罪の問題を考えると安全性に重視していただけたらと思っ
ています。近くの小学校を通り越して、遠くの小学校に通うということは、親としてもとても不安なこと
です。1案を基に進めていく中で、周辺地域の学区変更に理解していくとのことですが、下野庭小を
含めた学区変更を早い時期に考えていって欲しいです。

又、どちらかに統合が決まったの跡地のこともどうなるか心配です。それも含めて検討して頂きたく
FAXしました。

ありがとうございました。今後の検討の参考とさせていただきます。

【次回検討委員会日程】

平成18年10月6日(金) 午後7時から 野庭小 図書室で開催予定

野庭地区小規模校再編検討委員会の経過、横浜市の基本方針等は

ホームページでもご覧いただけます。

・基本方針など <http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/gakku/gakku.html>

・野庭地区小規模校再編検討委員会

<http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/gakku/shoukibo/index.html>



野庭地区小規模校再編検討委員会は、常に皆さまからのご意見をいただいております。

FAXかEメールにて、事務局までご連絡ください。

* 検討委員会事務局 *

横浜市教育委員会事務局 学校計画課

FAX:045-651-1417

Eメール: ky-noba@city.yokohama.jp

TEL:045-671-3252

